



# 阪南市の財政状況

## ～令和元年度決算～

阪南市の財政を  
いっしょに見てみよう！！

2021（令和3）年2月 作成

総務部 行政経営室



# もくじ

そもそも「財政」とは??	1 ページ
令和元年度決算の概要	2 ページ
歳入について「どんな収入があるの？」	3 ページ
歳出について「何にお金を使ってるの？」	4 ページ
歳入・歳出の推移「過去と比べると」	6 ページ
一人あたり歳入・歳出「類似団体と比較すると」	7 ページ
地方債残高「市の借金はどのくらい？」	8 ページ
基金残高「市の貯金はどのくらい？」	10 ページ
経常収支比率について「財政のゆとりは？」	12 ページ
将来負担比率について「負債の大きさは？」	13 ページ
主要な事業	14 ページ
阪南市のかかえる政策的課題	15 ページ
阪南市のかかえる財政課題	16 ページ
行財政構造改革プラン「これまでの取組は？」	17 ページ
阪南市の財政の将来予測	18 ページ
おわりに～阪南市民のみなさまへ	19 ページ





# そもそも「財政」とは??

## 「財政」ってなに??

地方公共団体は、学校・幼稚園・保育所・図書館・公民館などの運営や、子育て、介護、障がい者の支援、道路や下水道の維持管理、ごみの回収など、さまざまな行政サービスを行っています。  
市民のみなさんに納めていただいた税金などのお金を集めて管理し、これらの行政サービスに必要なお金を支払っていく活動のことを「財政」といいます。

## 「予算」と「決算」ってなに??

「予算」とは、お金のやりくりの「計画」のことです。  
1年間の税金などの収入がどれくらいかを予測し、その範囲の中でお金の使い道（支出）を決めています。  
「決算」とは、予算に基づいて実施した1年間の収入と支出の「結果」のことです。

阪南市はどんなやりくりをしているのかな？



# 令和元年度決算の概要

## 令和元年度の決算（普通会計ベース）

歳入（収入）は、180億8,495万円（前年対比 ▲10億2,396万円）

歳出（支出）は、178億1,117万円（前年対比 ▲10億2,520万円）

形式収支（歳入－歳出）は2億7,378万円となり、翌年度に繰り越す事業に使うための財源486万円を差し引いた「実質収支」が2億6,892万円の黒字となっています。（黒字額については、令和2年度の歳入予算に計上。）



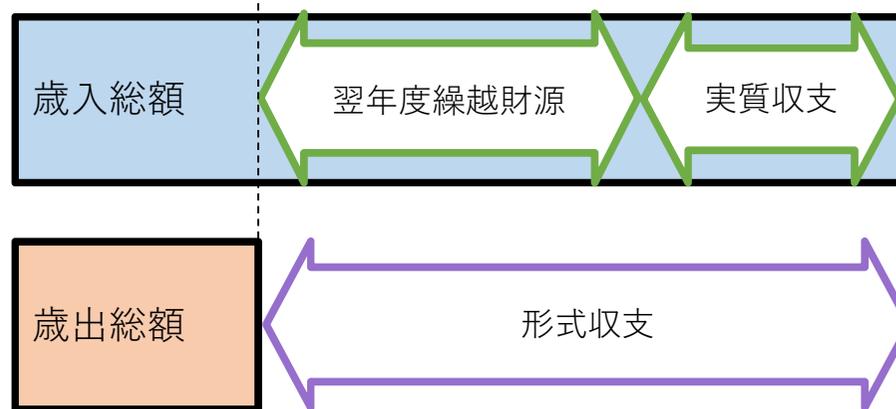
### 実質収支とは

歳入・歳出の差引額(形式収支)から翌年度に繰り越す事業に使うための財源を差し引いたもの。

その年度の決算が黒字か赤字かは、実質収支によって判断されます。実質収支の黒字額は翌年度の歳入として繰り越され、事業の実施や財政調整基金の積立などに使われます。

※基金については、10ページで説明します。

### ○実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）



令和元年度の阪南市の決算は黒字だったんだね！！  
歳入と歳出の中身はどうなってるのかな？

### 【用語説明】

#### ●普通会計

全国の自治体の財政状況を比較するために用いられる地方財政統計上の統一的な会計区分。

そのため、「広報はんなん」などに掲載されている一般会計の決算額とは異なります。

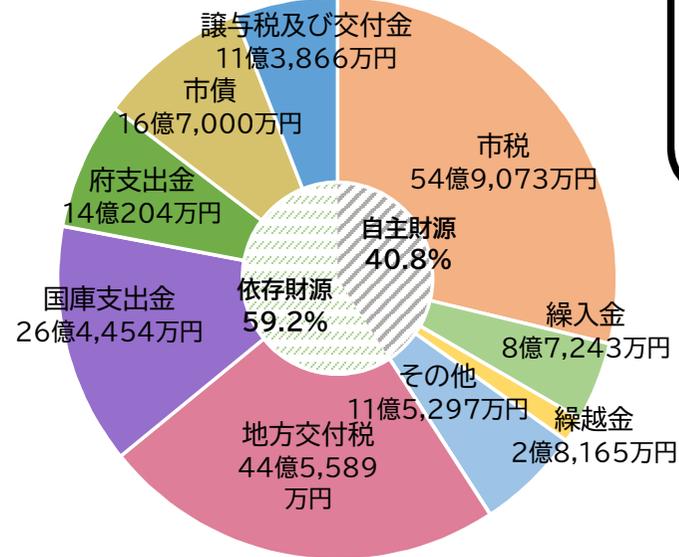
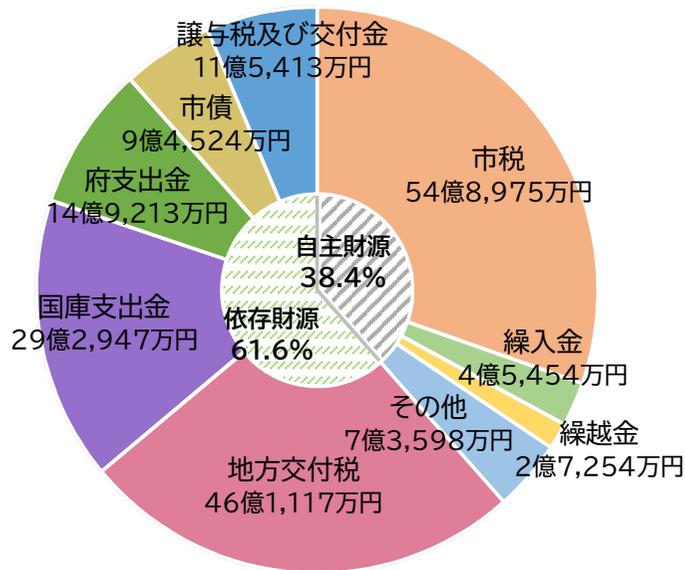


# 歳入について 「どんな収入があるの？」

令和元年度決算は歳入総額180億8,495万円となり、前年度(191億891万円)と比べ10億2,396万円減少しました。

**令和元年度：総額180億8,495万円**

**平成30年度：総額191億891万円**



阪南市の自主財源は、約40%ほどになっているね。依存財源に頼った財政運営となっていることがわかるね。



## 主な増加した項目

- ・ 地方交付税 (社会保障関連経費の増加など) + 1億5,528万円
- ・ 国庫支出金 (プレミアム付商品券事業など) + 2億8,493万円

## 主な減少した項目

- ・ 市債 (泉南阪南共立火葬場完成による建設事業減少など) ▲ 7億2,476万円
- ・ 繰入金 (その他特定目的基金からの借入を行わないなど) ▲ 4億1,789万円

## 自主財源と依存財源ってなに??



### ●自主財源

市税や寄附金など、市が自主的に収入できるお金

### ●依存財源

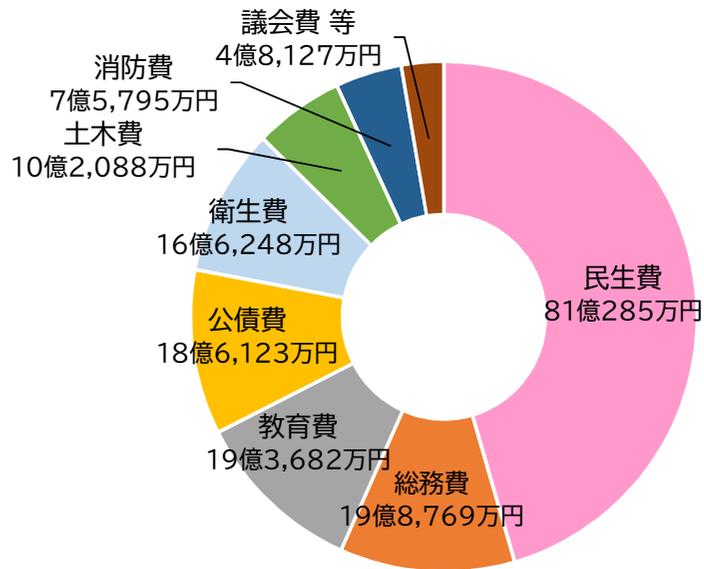
国や大阪府からのお金など、市が自主的に収入できないお金

# 歳出について「何にお金を使ってるの？」①

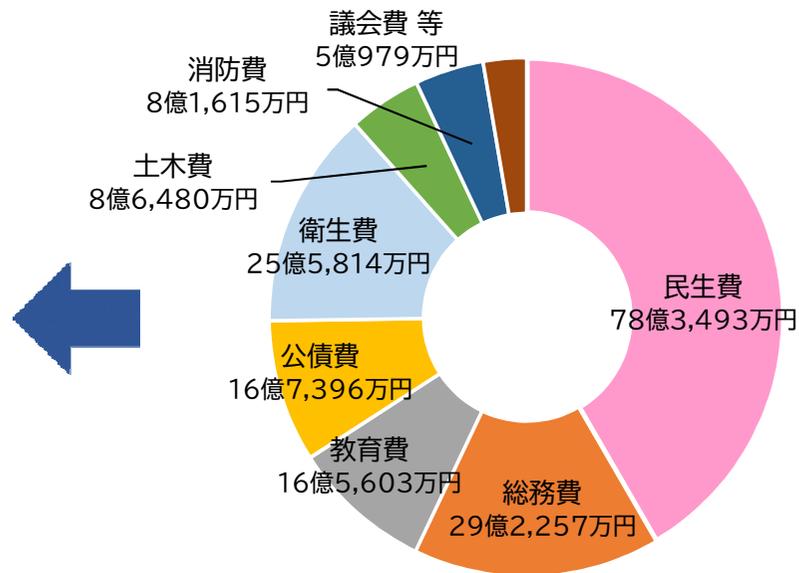
## 目的別

目的別とは、「仕事の内容」で区分した歳出です。  
令和元年度決算は平成30年度決算と比べ、歳出総額10億2,520万円減少しました。

令和元年度：総額 178億1,117万円



平成30年度：総額 188億3,637万円



民生費が全体の半分くらいをしめているんだね。阪南市は高齢化率が全国平均より高いって聞くけどその影響かな！？

性質別にみるとどうなるんだろう？？



### 主な増加した項目

- ・民生費（幼児教育・保育の無償化やプレミアム付商品券など） + 2億6,792万円
- ・土木費（下水道事業会計への繰出金など） + 1億5,608万円
- ・教育費（幼児教育・保育の無償化や鳥取・尾崎中学校の統合に伴う事業など） + 2億8,079万円

### 主な減少した項目

- ・総務費（基金積立金やふるさと納税に関する事業など） ▲ 9億3,488万円
- ・衛生費（泉南阪南共立火葬場完成による建設事業減少など） ▲ 8億9,566万円

### 【用語説明】

- 民生費：医療介護や児童の福祉など
- 総務費：証明書の発行、選挙など
- 衛生費：ごみ処理や病気の予防など
- 公債費：借入金の返済など

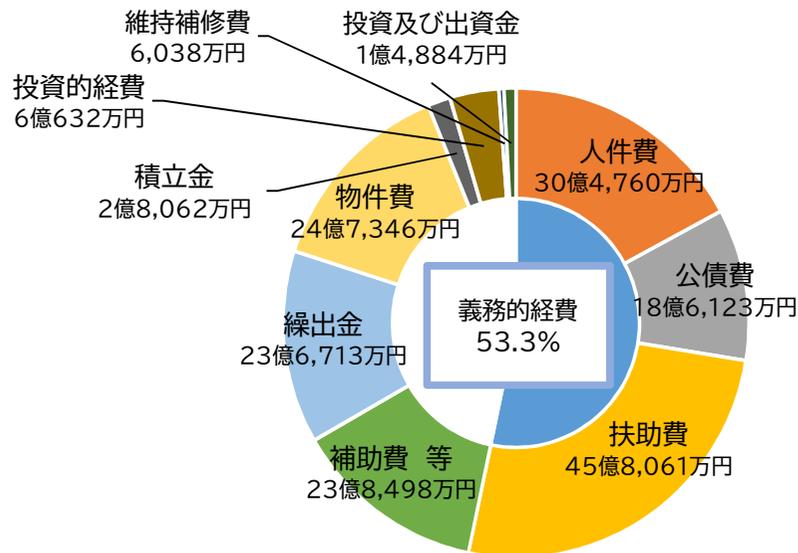
# 歳出について「何にお金を使ってるの？」②

## 性質別

性質別とは、「どんなことにお金を使ったか」で区分した歳出です。

令和元年度：総額 178億1,117万円

平成30年度：総額 188億3,637万円



### 主な増加した項目

- ・ 扶助費（社会保障関連経費の増加など） + 1億5,447万円
- ・ 繰出金（高齢化に伴う特別会計への繰出の増加など） + 1億1,994万円
- ・ 公債費（総合こども館構想廃止に伴う一括償還など） + 1億8,727万円

### 主な減少した項目

- ・ 人件費（議員報酬、特別職、管理職、一般職の給与カットなど） ▲ 1億181万円
- ・ 積立金（ふるさと納税の減少など） ▲ 5億1,087万円
- ・ 投資的経費（泉南阪南共立火葬場の完成による建設事業減少など） ▲ 5億5,079万円

扶助費や繰出金が伸びてるね！！  
高齢化の影響によって、繰出金が増加しているんだね。

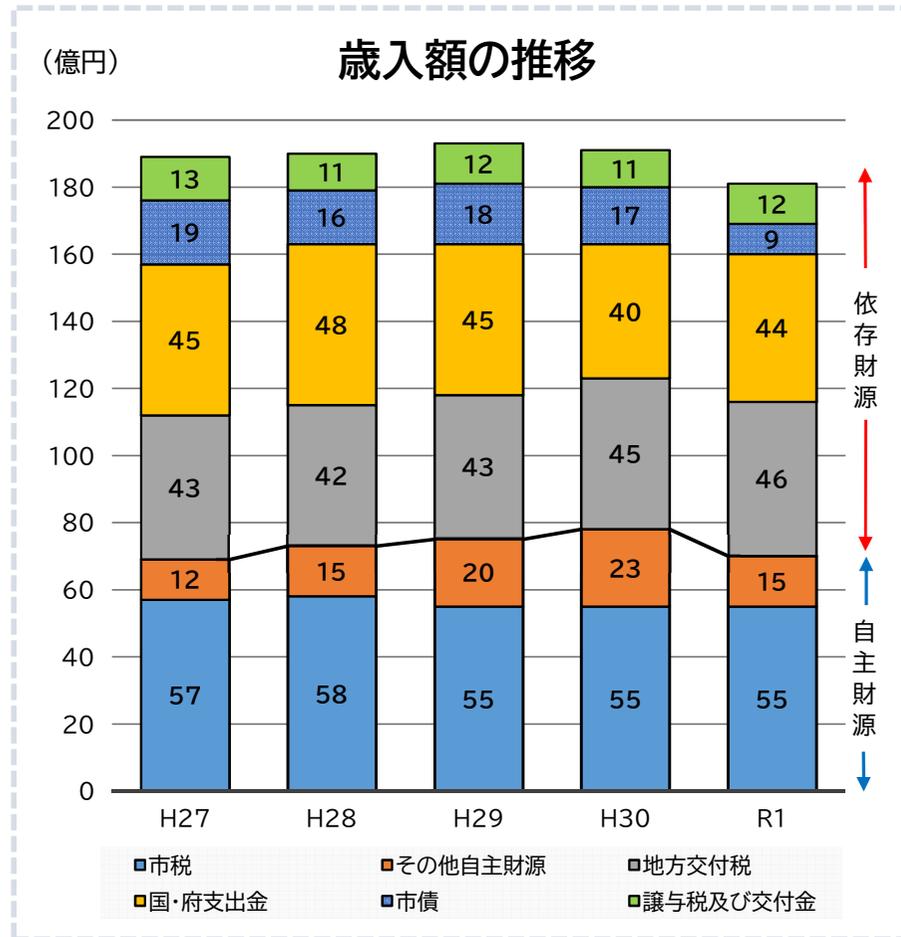


### 義務的経費ってなに??

毎年の支出が義務付けられ、削減することが難しい経費です。扶助費・人件費・公債費から構成されます。義務的経費が増えると、財政のゆとりが少なくなってしまいます。

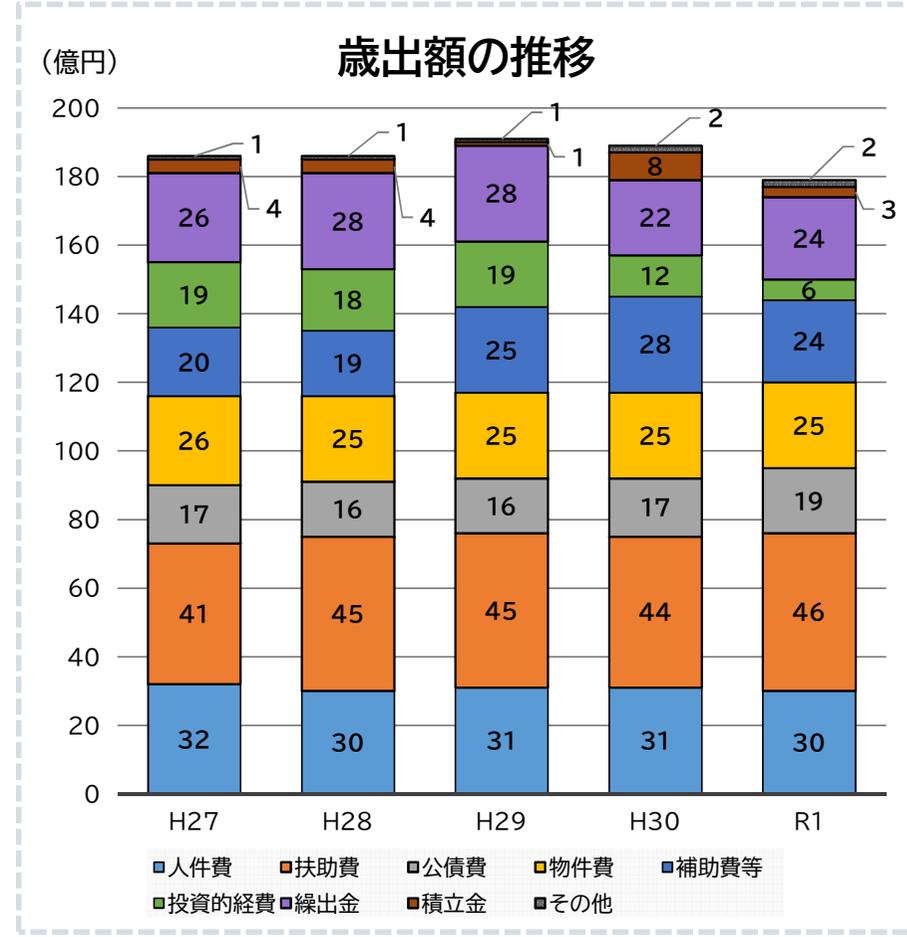


# 歳入・歳出の推移「過去と比べると」



## ○歳入額の推移

社会保障関連経費の増加により、国・府支出金や地方交付税については、増加傾向にあります。しかし、人口減少等により市税は減少傾向にあり、依存財源の割合が増加しています。



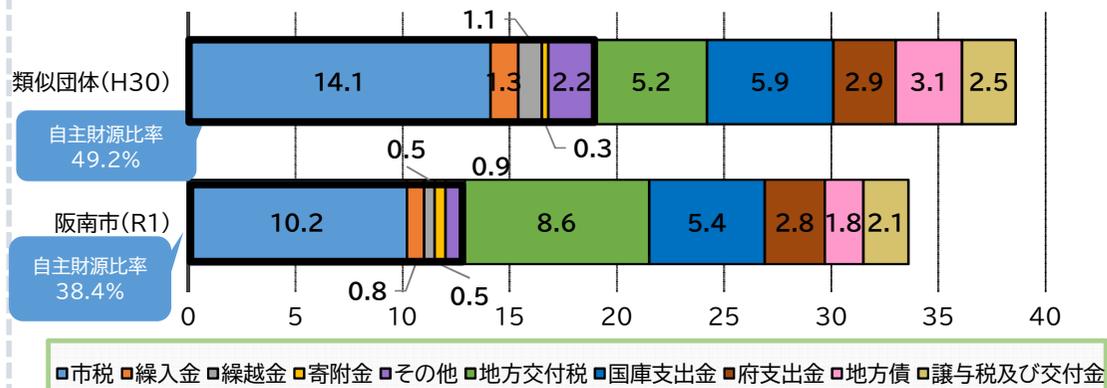
## ○歳出額の推移

火葬場の建設が完了したことにより、投資的経費は減少傾向にあるものの、少子高齢化社会の進展に伴う社会保障関連経費の増大により、扶助費が増加傾向にあります。

# 一人あたり歳入・歳出「類似団体と比較すると」

## 一人あたり歳入額

(万円)



### ○歳入額の比較

住民一人あたりの額で見ると、阪南市の自主財源の割合は類似団体よりも低く、地方交付税などの依存財源に頼らざるを得ない状況となっています。市税の徴収率向上をはじめとする自主財源の確保に努める必要があります。

『類似団体内順位』（住民一人あたり）

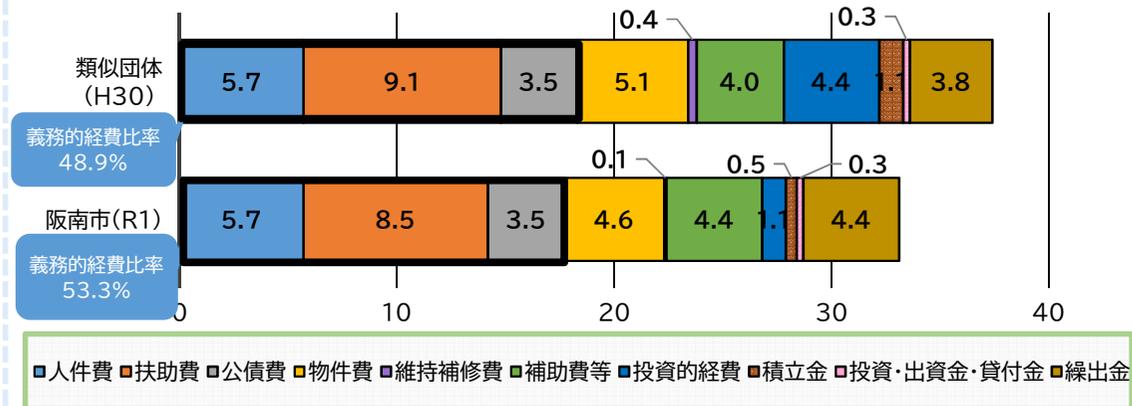
歳入総額 65位 / 86団体中

自主財源 86位 / 86団体中

市税 80位 / 86団体中

## 一人当たり歳出額

(万円)



### ○歳出額の比較

住民一人あたりの額で見ると、阪南市の義務的経費の割合は類似団体よりも高くなっています。

人件費の金額は類似団体と同額ですが、歳出合計が類似団体よりも低いため、割合で比べると高くなります。

本市は施設にかかる職員数が多く、今後、民間の活用等により人件費を削減していく必要があります。

『類似団体内順位』（住民一人あたり）

歳出総額 63位 / 86団体中

義務的経費 43位 / 86団体中

### 類似団体ってなに？

全国の市町村を「人口」と「産業構造」の2要素の組み合わせにより分類し、同じ類型に属する団体の総称。

※本冊子において、「類似団体」についての表現は、原則「類似団体の平均」を表しております。

### 注意

本冊子では、阪南市の令和元年度決算の各数値を平成30年度決算と置き換えた場合に、類似団体内でどの順位になるかを『類似団体内順位』と表しております。

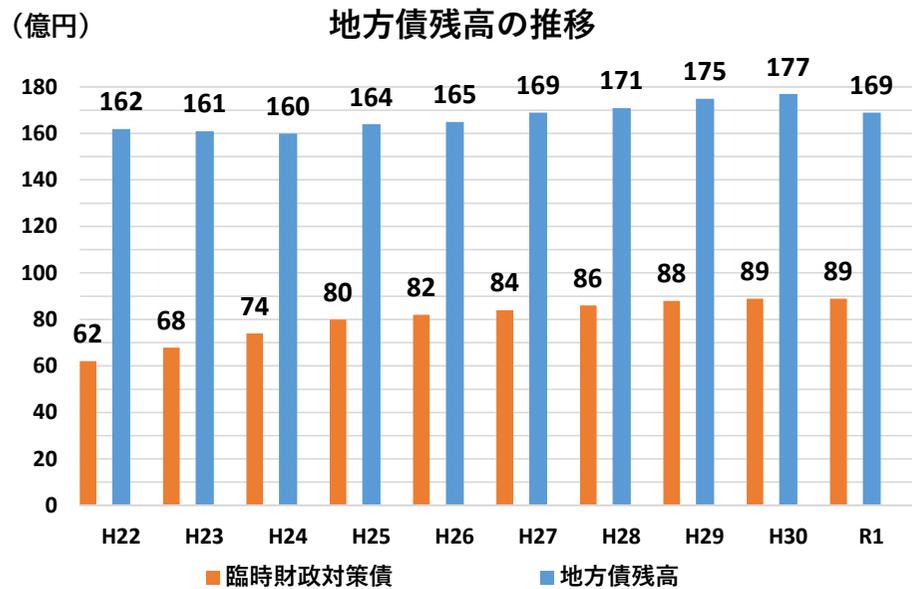
# 地方債残高 「市の借金ほどのくらい？」①



地方債 = 市町村の借金

Q. なぜ借金をするの??

A. 公共施設（図書館、道路等）のように将来にわたって活用する建物を建設する場合、建設時の住民だけが費用を負担すると不公平になります。そのため、これから施設を利用する将来世代の市民にも負担をしてもらい、世代間の公平性を図るために借金（地方債の発行）をしています。



普通会計における阪南市の市債残高は、令和元年度末時点で約**169億円**あります。

臨時財政対策債などを除いた建設地方債は、過去に小・中学校の耐震化や防災コミュニティセンターの取得で発行した市債の償還が進んでいることや、令和元年度の総合こども館構想廃止に伴う地方債の一括償還により、平成30年度から令和元年度にかけて減少しています。

一方、臨時財政対策債の残高は年々増加傾向にあり、令和元年度末では全体の約**52.7%**を占めています。

## 【用語説明】

●**臨時財政対策債**:国が地方交付税を交付するにあたり、財源が不足した場合に、その穴埋めとして地方自治体に地方債を発行(借入)させる制度。翌年度以降の地方交付税(国から交付されるお金)の算定に反映されます。



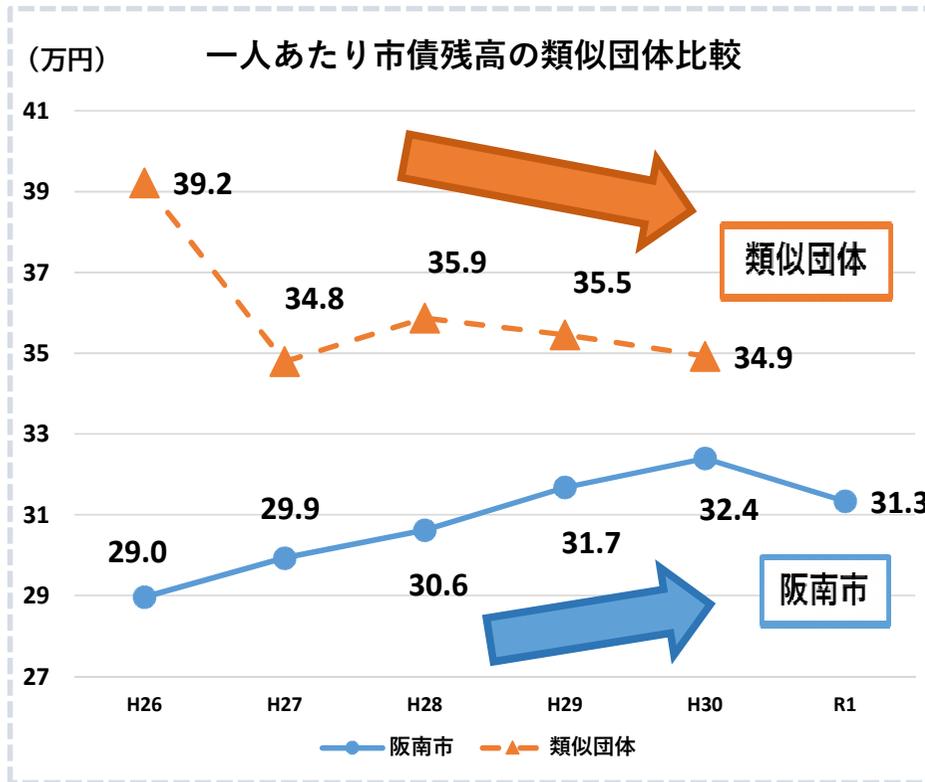
借金と言っても「赤字だから借りている」というわけではないんだね!

「長く利用される施設なので、将来世代の住民も負担する」という考え方なんだ!



# 地方債残高 「市の借金ほどのくらい？」②

## 市民一人あたりの地方債残高(借金):約31万円



令和元年度は鳥取中学校と尾崎中学校の統廃合などの投資的事業がありましたが、新たに地方債を発行した額より今までの地方債を返済した額のほうが大きくなりました。そのため、市債残高が減少したことにより、市民一人あたりの地方債残高は10,562円減少の**313,369円**となりました。

本市と類似団体平均を比べると本市の方が一人あたり地方債残高が少ないことがわかります。しかし、本市は学校などの耐震化や駅前整備など様々な問題を解決するために地方債を活用した結果、類似団体は減少傾向であるのに対して、増加傾向となっています。

今後も地方債残高の推計をみながら将来の財政負担が大きくなりすぎないように注意していきます。

『類似団体内順位』（住民一人あたり）  
39位／86団体中



上のグラフは阪南市の地方債残高について、類似団体と比較したものだよ！！  
一人あたりで換算すると約31万円の借金を市がしているんだね！！

### 注意

地方債には「世代間の公平性を図る」という大きな目的があります。とはいえ、自治体の借金であることには変わりなく、借金である以上、利息も発生します。将来の財政負担も考えて、適切な事業の実施を考える必要があります。

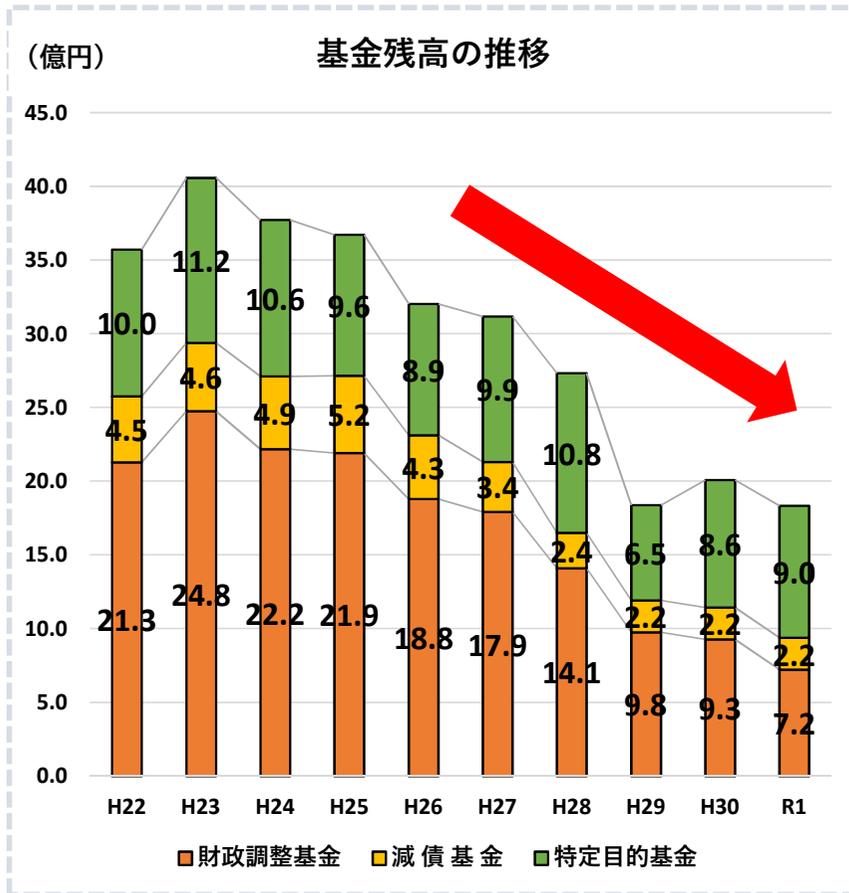
# 基金残高 「市の貯金はどのくらい？」①



## 基金 = 市町村の貯金

Q. 貯金は多いほどいいの??

A. 市は、市民の皆さまから預かった税金で行政サービスを行っていますが、今後の事業や不測の事態（災害等）に対応できるようにするため、ある程度の貯金は必要です。



令和元年度末の基金残高は、前年度末に比べて減少し、約18億3,300万円となりました。

平成30年度は、ふるさとまちづくり応援基金の積立てにより、一時的に増加しているものの、財政調整基金においては平成24年度から8年連続取崩しており、残高は年々減少し、厳しい財政運営が続いています。

持続可能な行財政運営を行うため、歳入に見合った歳出予算を編成することにより、財政調整基金の取崩しを行わない財政運営をめざします。

財政調整基金を8年連続で取り崩すということは  
収入（歳入）に見合った予算が組むことができていない  
んだね。

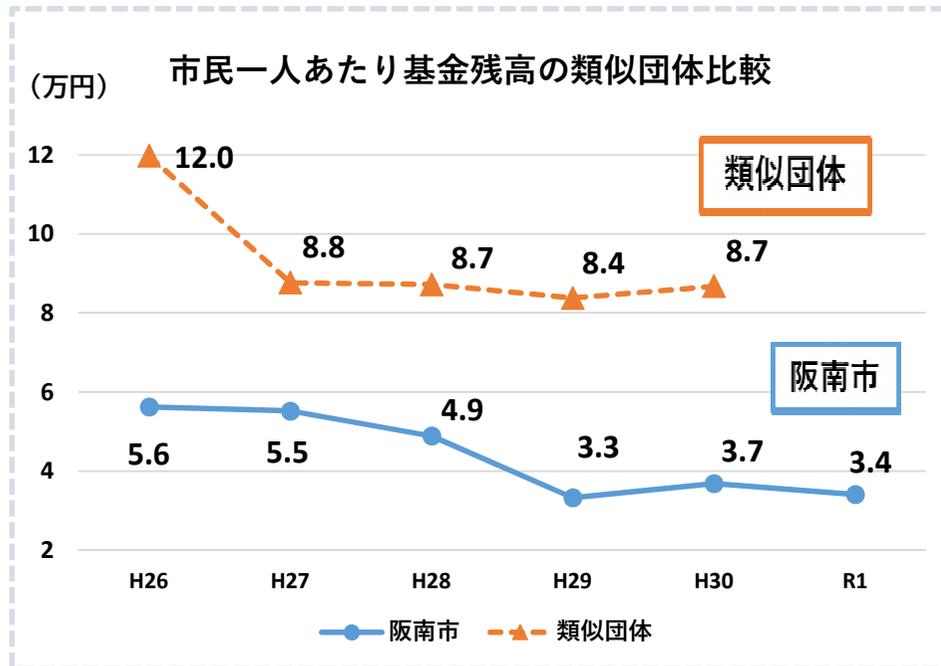
### 【用語説明】

- 財政調整基金: 年度間の財源の不均衡を調整するお金
- 減債基金: 地方債を返済するためのお金
- 特定目的基金: 特定の使い道に限って使えるお金



# 基金残高 「市の貯金はどのくらい？」②

## 市民一人あたりの基金(貯金)残高:約3.4万円



令和元年度の市民一人あたりの基金(貯金)の残高は、平成30年度に比べて2,781円減少しています。

また、類似団体と比較すると本市は一人あたりの残高が大幅に少ないことが分かります。財政調整基金が減少していることが要因の一つとなっており、令和4年度には財政調整基金の残高が0円となる見込みです。

高齢化の進展に伴って、扶助費などの社会保障関連経費が今後も増加していくことが予想されるため、基金に頼ることなく、減少しないように努める必要があります。

『類似団体内順位相当』(住民一人あたり)  
78位/86団体中

**重要!**

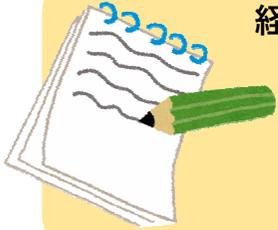
### 財政調整基金がなくなるとどうなるの??

財政調整基金には、年度間調整の他にも緊急時(災害等)への備え等といった大切な役割があります。また、現状は毎年取崩しを行っているのも、もし財政調整基金がなくなったら、赤字となり現在の行政サービスが維持できなくなる可能性があります。

類似団体と比べると市の貯金は少ないんだね...。  
これから先、基金が必要な時に十分活用できるよう、計画的に積み立てていくことが大切だね!



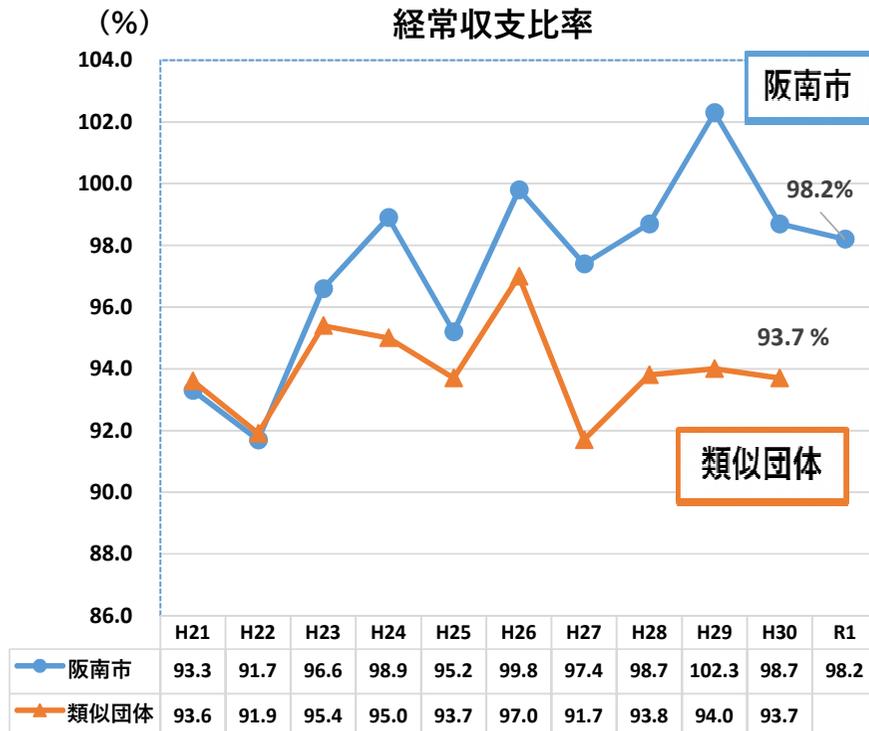
# 経常収支比率について 「財政のゆといは？」



## 経常収支比率とは

自由に使えるお金の割合（ゆとり）がどれくらいを示す指標です。

市税などの用途に制限のない収入が、義務的経費（人件費・扶助費・公債費）や、施設の管理などの毎年の固定費に充てられる割合を表します。100%を超えると、毎年決まって支出する経費に対しての財源が不足していることになります。



令和元年度の経常収支比率は98.2%で前年度に比べて0.5ポイント良化しているものの、100%に近い水準で推移していることが分かります。100%に近づくほど、新しい事業や投資的な事業を実施する余力がなくなってしまいます。

全国平均に比べて高齢化率が高い本市では、社会保障関連経費などの経常的な経費が多くなっていることが要因の一つとなっています。

人口減少に伴い、市税の収入の増加を見込むことが今後も難しいため、より一層経費の削減に努めていく必要があります。

『類似団体内順位』

72位 / 86団体内

10年前は類似団体と数値が近いけど近年は大きく乖離していて、阪南市は類似団体より自由に使えるお金が少ないんだね。自由に使えるお金を増やすには経常収支比率を改善する必要があるね。

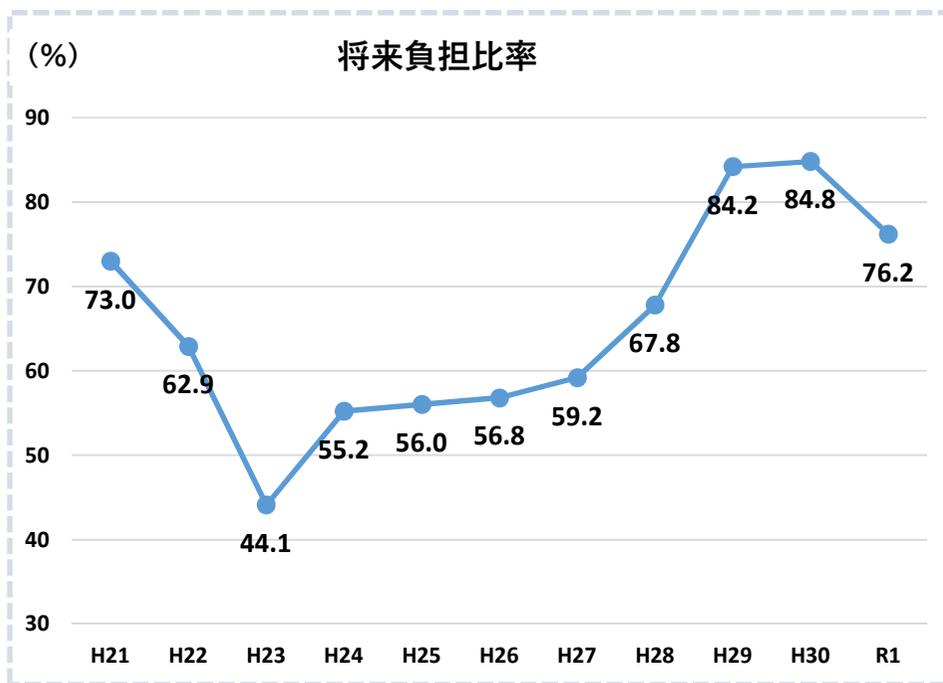


# 将来負担比率について「負債の大きさは？」



## 将来負担比率とは

市町村の財政の健全性を示す目安である健全化判断比率のうち、将来の負担が大きすぎないかを判断するための指標です。地方債などの、地方公共団体が抱える負債の大きさ（将来にわたって支払うことが見込まれる費用）が年間の収入の規模に対し、どれくらいの割合になるかを表します。



令和元年度の将来負担比率は76.2%で、前年度に比べて8.6ポイント良化しています。

総合こども館構想廃止に伴う地方債の一括償還や、新しく借金（起債）することを抑制したことが要因です。

早期健全化基準（350%）には達していませんが、公共施設の老朽化対策など今後も起債発行が必要な事業があります。将来に過度な負担を与えることがないように、財政の健全化に努めていきます。

『類似団体内順位』

69位 / 86 団体中



## 健全化判断比率とは？



市町村の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための、「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」の4つの指標の総称です。

将来負担比率が350%を超えると「危険信号」（早期健全化基準）となり、早急に財政運営の健全化に取り組まなければなりません。

# 主 要 な 事 業



令和元年度に実施した主要な事業を紹介します。本市では、「阪南市行財政構造改革プラン」に沿った構造改革への取組と、「阪南市総合計画 後期基本計画」を具体化させるため、3つの視点で、重点的に施策の展開を図りました。

## ① 安全・安心で生活しやすいまちづくり



### 共生の地域づくり推進事業

地域づくりを支援するため、社会福祉協議会に「共生の地域づくり推進員」を配置しています。また、サロン・カフェにおいて、ほっこり相談（福祉相談）の拡充を図りました。

約1,296万円

## ② 子育て・子育てが満喫できるまちづくり



### 鳥取中学校整備事業

令和2年4月の鳥取中学校と尾崎中学校の統合に向けて、鳥取中学校の校舎の増築など施設を整備しました。

約3億4,445万円

## ③ 自然を活かしたにぎわいのあるまちづくり



### はなんまちづくりプロジェクト

大学やNPO法人などと連携し、阪南市の活性化を図るため、社会実験及び活動する団体の支援を行いました。

約679万円

上記にあげた事業以外にも市民協働や民間活力を活かした事業を実施しております。

事業名：行政サービス協働化事業（はなていアクション）、市民協働事業提案制度、モンベルフレンドエリアなど

# 阪南市のかかえる政策的課題

これまでは、阪南市の決算情報について説明してきました。次に阪南市の主な課題について紹介します。

## 課題1：「新しい公共」の創出と地域コミュニティの再構築

- ・協働によるまちづくりの推進、まちづくり協議会など住民自治の体制強化 など

## 課題2：医療・福祉などのサービス充実・強化、将来をにう子どもたちへの投資

- ・重層的な相談支援体制の構築、子育て・子育てが出来る環境整備、グローバル社会に対応した教育の展開 など

## 課題3：安全安心で豊かな生活環境の確保や快適な暮らしを支える都市基盤の維持・活用

- ・防災体制の強化、道路環境などの都市基盤の整備、地域資源の活用、里海・里山づくりなど自然環境の保全 など

## 課題4：地域を活性化につなげる産業の育成

- ・地場産業を含む産業活性化による雇用の創出、交流人口の増加、地産地消の推進、地域資源を活用した観光施策 など

## 課題5：地方分権時代の進展、安定した行財政運営

- ・市民ニーズの多様化、行政経営力の強化、広域行政の推進 など



これらの課題を解決していくためには、持続可能な**財政運営が必要不可欠！！**

# 阪南市のかかえる財政課題

阪南市の財政が抱える課題をお示します。

- ・ 老年人口（65歳以上）が増加し、生産年齢人口の割合が減少 特に、75歳以上（後期高齢者）の割合が増加
- ・ 昭和40～60年代の人口急増期に整備した公共施設等の老朽化、大量更新期の到来
- ・ 地方分権の進展、多様化・複雑化する行政課題

## 歳入

- 市税は、生産年齢人口の減少により、伸び悩み
- ※市民一人当たりの税収が少ない  
(類似団体順位相当 80位/86団体中)

大きな伸びが期待できない

## 歳出

- 増加し続ける社会保障関連経費  
(2040年頃まで高齢者数は増加見込)
  - ・ 医療や介護への負担金・繰出金の増加
- 公共施設の維持管理経費等の増加
- 市制施行時の採用増加期の職員が退職期を迎えることによる人件費の増加

経常的経費の増大

- ・ 財政運営が**危機的な状況**。（8年連続財政調整基金を取崩した財政運営）
- ・ 財政の硬直化で重要事業の推進や新たな課題に、経営資源（ヒト・モノ・カネ）を投入する**余裕がない**。

問題を解決するにもお金がない状況なんだ。これから行財政運営をどのように行うのだろう。  
次のページで課題に対応するために阪南市が行っている取組についてみていこう！



# 行財政構造改革プラン「これまでの取組は？」

阪南市が抱える様々な課題に対応するため、平成30年11月に「阪南市行財政構造改革プラン」を作成しました。（目標期間2019年度～2028年度）

## 【目的】

現状の危機的な財政状況を回避・回復させ、かつ、住民自治を展望する公民協働のまちづくりを着実に推進させしなやかに優しく活力あふれる自立した市政をめざす。

## 【めざす姿】

財源の確保を行い、時代に即応した重点化する事業に投資することで、地域社会・経済の活性化につながる好循環を生み出し、持続可能な行財政運営を確立する。

## 【取組内容】

### 1. 働き方改革・人材育成・協働

- ・市民等と行政の枠割分担の見直しとともに、協働の推進を図る。

### 2. 財源の積極的な確保

- ・あらゆる手法を用いて自主財源の確保に取り組む。

### 3. 事務事業の見直し等

- ・事務事業、公共施設等の抜本的な見直しを行う。
- ・公民の役割分担による住民自治の実現をめざし、地域社会の活性化を図る。

プランの詳細については、ホームページをご確認ください。  
<http://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/somu/gyoukei/gyouzaikaku/1533015190939.html>

阪南市が抱える問題を解決するために阪南市行財政構造改革プランを作成したんだね。



行財政構造改革プランの目標効果額と実施状況及び見込額 (百万円)

項目	平成30年11月作成 当初の目標効果額 (2018～2022年度 計)	令和2年11月時点の 実施状況及び見込額 (2018～2022年度 計)
取組1：働き方改革・人材育成・協働	4	288
取組2：財源の積極的な確保	503	602
取組3：事務事業の見直し等	574	387
取組4：特別会計等の経営健全化	127	187
合計	1,205	1,464

行財政構造改革プランの取組実績ランキング (百万円)

順位・取組名	平成30年11月作成 当初の目標効果額 (2018～2022年度 計)	令和2年11月時点の 実施状況及び見込額 (2018～2022年度 計)
1位：ふるさと納税の戦略的な展開	351	472
2位：給与費の抑制（職員の給与カット）	0	133
3位：介護保険改革（保険者機能の強化）	0	77
合計	351	753

# 阪南市の財政の将来予測

本市の課題や行財政構造改革プランを踏まえた財政の将来予測は次のとおりとなります。

## 財政の将来予測（普通会計） 令和3年2月時点

(百万円)

	令和元年度 決算	令和2年度 決算見込み	令和3年度 決算見込み	令和4年度 決算見込み	令和5年度 決算見込み	令和6年度 決算見込み
歳入	18,085	18,771	18,601	18,389	18,221	18,146
歳出	17,811	18,771	18,601	18,431	18,813	19,239
実質収支	269	0	0	▲42	▲592	▲1,093
実質単年度収支	▲204	▲293	▲369	▲370	▲550	▲501

積立基金残高	1,833	2,191	1,490	1,047	939	837
財政調整基金	721	697	328	0	0	0
その他	1,112	1,494	1,163	1,047	939	837

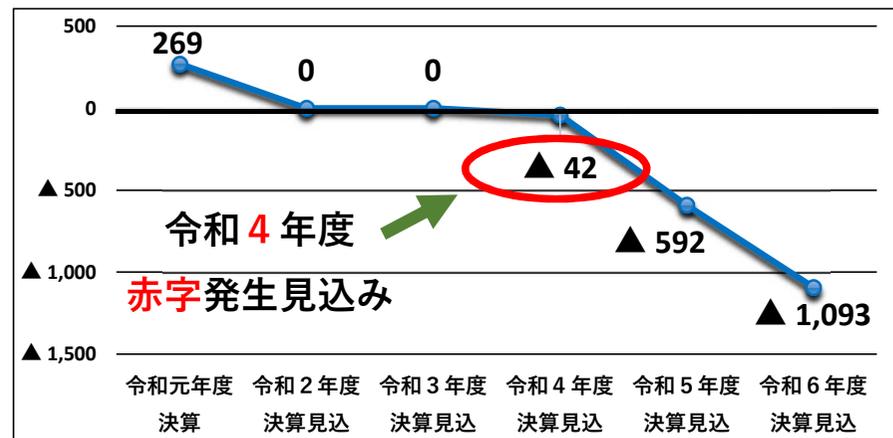
※百万円単位の端数調整により、合計と内訳などが一致しない場合があります。

※新型コロナウイルス感染症対策に伴う関連経費については、その経費を含まないこととしています。

※現時点において予測される事業、体制を算出の基礎としています。

## 実質収支の予想推移

(百万円)



### 【用語説明】

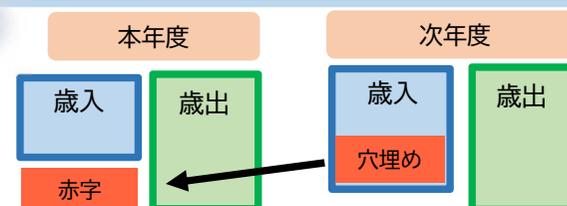
●実質単年度収支

単年度収支(当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額)から、実質的な黒字要素(財政調整基金

### Q. 「赤字」になるとどうなるの??

A. 歳出額に対して歳入額が足りない(赤字)と、次年度の予算から前借り(繰上充用)して事業を行うこととなり、現在の行政サービスが維持できなくなる可能性があります。

### 繰上充用のイメージ



財政の将来予測では、歳入の伸びが期待できない中で、貯金(財政調整基金)を取り崩した財政運営を行うと、令和4年度決算見込みにおいて財政調整基金の残高が0となり、阪南市は赤字決算となります。

さらに、令和5年度、6年度と年度を重ねるにつれて赤字額が膨らみ、このまま赤字が膨らみ続けると大阪府や国の管理の下、厳しい財政の健全化が求められ、大幅な行政サービスの見直し(他市では小・中学校が1校ずつとなる)など、市民生活に多大な影響を与えることになるという**非常に厳しい財政の将来予測**となっています。

# おわりに ～阪南市民のみなさまへ～

阪南市では、人口減少が進む中、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響もあいまって、財政基盤の根幹をなす市税収入は減少傾向にあります。一方、昭和40年～50年代に開発されたかつてのニュータウンを中心とする高齢化の進展に伴い社会保障関連経費等の義務的な経費が非常な勢いで増加しており、また、市内の公共施設の老朽化による修繕及び改修などの経常的な経費についても、確保する必要があります。

このようなことから、家計では貯金にあたる財政調整基金を8年連続で取り崩さざるを得ない状況となっており、財政の硬直化を表す経常収支比率が100%に近い数値で推移しています。

このままでは、現在の行政サービスの水準を維持することが困難であるため、平成30年11月に行財政構造改革プランを策定し、しなやかで力強い行財政運営を行えるよう取組を進め、一定の成果を挙げてきましたが、令和4年度末以降は、赤字決算が続く見込みとなっています。

今、この時期を逃すと、市の財政を立て直すことが非常に困難となります。このように財政が危機的状況にある中、市民のみなさまと本市財政の現状と課題を共有することが大切であることから、今回本冊子を作成しました。

人口減少などに伴う本市の将来のたたずまいを見据えた効率的かつ効果的な行政サービスの提供をめざしつつ、将来にわたって市民協働による活力とやさしさあふれるまちづくりを守ることができるよう、持続可能な行財政運営の確立に向けた取組を進めてまいります。

本市のみなさまのご理解とご協力を是非ともよろしくお願いします。

阪南市を  
くらし、働き、楽しむまちに  
発展させていこう！！

